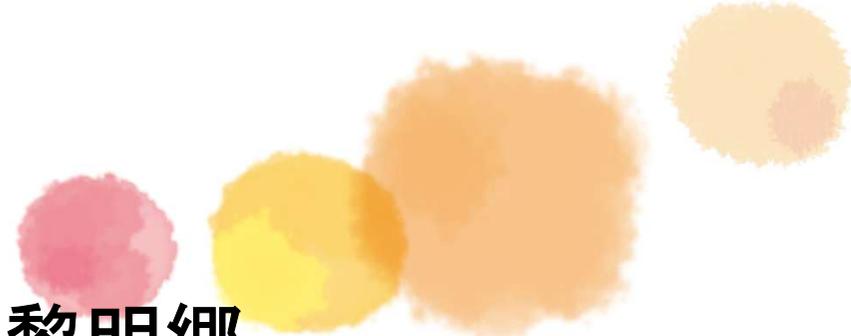


理学療法室の紹介



一般財団法人 黎明郷

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

目次

- 当院理学療法士の業務
- 教育体制
- スタッフの声
- 室長から

当院理学療法士の業務

● 急性期・一般病棟

入院初日から医師の指示のもと評価・運動療法を開始しています。十分なリスク管理のもと早期離床・早期歩行練習による身体機能向上・ADL拡大に取り組んでいます。

一般病棟では心臓リハビリもを行い、医師等と連携してリスク管理をしながら運動療法や生活指導を行い、ADL向上・社会復帰支援・再発予防に取り組んでいます。





● 回復期病棟

身体機能向上を目的とした練習に加え、病棟内の実際に生活している場所で動作練習を行い、入院中だけでなく今後の生活を見据えた理学療法を展開しています。また多職種と協働して、早期のADL向上と自宅復帰を目指します。

● 訪問・外来リハビリテーション

対象となる方が住んでいる地域で自立した生活を送ることや、自分らしく生きがいを持って生活できることを目的としています。必要に応じて自宅での生活状況の確認や動作・介護指導を含め、生活を支える視点でアプローチしています。



- 医療を支えるチームの一員として

当院では医療安全面において理学療法士が転倒・転落防止対策の立案やその点検等に携わり、理学療法の知識と技術を活用しています。

その他にも褥瘡対策委員会や排泄支援チームなど、理学療法士が活躍できる場は多方面にわたっています。

当院では、脳神経系理学療法において以下の3点に重点を置いています。

①装具療法

積極的な長下肢装具の利用と装具を使用した運動療法により、患者様の運動学習を効率的・効果的に行えるようにしています。

②電気刺激療法

ESPURGE（エスパージ）、ウォークエイド、IVES（アイビス）を利用し、身体機能の改善を図るだけでなく運動療法の効果を促進できるようにしています。



③早期立位・歩行練習

早期からの立位・歩行練習により、患者様のADL向上を支援します。安全・安心に練習が行えるよう、免荷式歩行リフトPOPOや部分免荷トレーニング機器も活用しています。



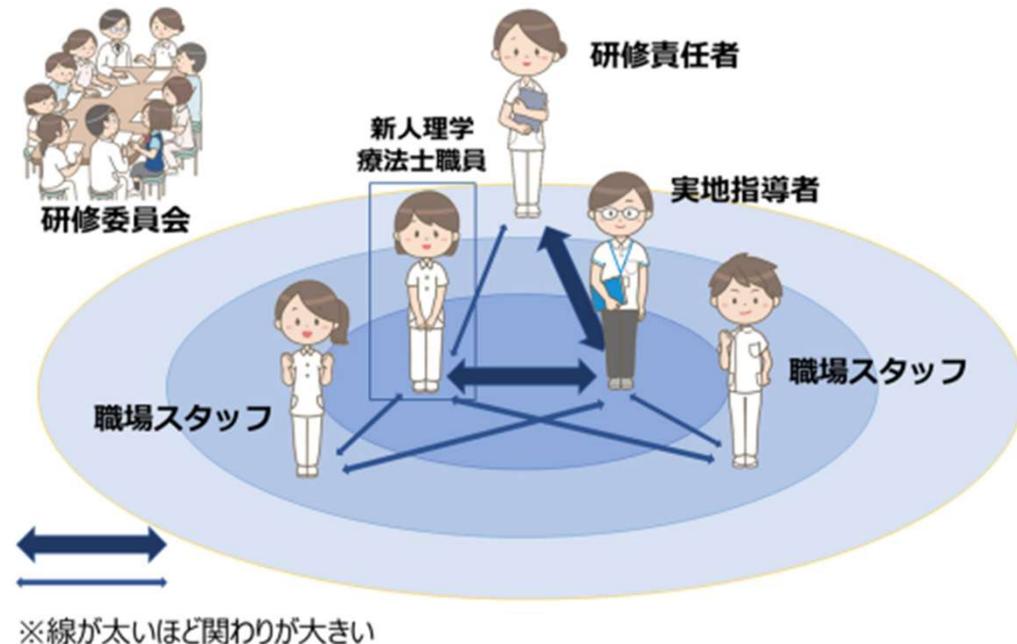
理学療法室の教育体制

新人指導

基本的な理学療法の実践や、専門職としてふさわしい知識・技術・態度・管理能力が習得できるよう支援しています。

指導者が新人の能力に合わせて段階的に経験を積むことができるように計画しています。

臨床場面に即した職員評価を定期的に行い、短期・長期ゴールを立案して目標達成に向けた方針を共有します。





研修会

毎月症例検討会を開催し、理学療法評価や治療方法について意見交換する機会をつくっています。また昨年度より、EBP（Evidence Based Practice）研修会や基本動作の実技研修会も開始しています。

積極的に意見交換を行い、より良い理学療法を提供できるために有意義な場となっています。



個人のスキルアップも積極的に支援しています。

当院理学療法士の保有資格(令和6年7月現在)

日本理学療法士協会 認定理学療法士(脳卒中・循環)

日本心臓リハビリテーション学会 心臓リハビリテーション指導士

3学会合同呼吸療法認定士

日本臨床栄養代謝学会 NST専門療法士

回復期リハビリテーション病棟協会 回復期セラピストマネジャー

社会福祉士

介護支援専門員(ケアマネジャー)

東京商工会議所 福祉住環境コーディネーター(2級)

職員の声①

➤ 理学療法士 1年目

理学療法士として勤務し数ヵ月が経過しました。国家試験を終え理学療法士として働くようになり、日々の業務を通して新たな課題に直面することもあります。先輩方の丁寧な指導や院内勉強会を通して着実にスキルアップできる環境が整っていると感じています。

また実際のリハビリテーション場面では、患者様一人ひとりと向き合う中で多くの学びややりがいを感じることができ、日々充実した時間を過ごしています。まだまだ未熟な点も多く、学ぶことの多い毎日ですが、より質の高いリハビリテーションの提供に努めていきたいと思っております。

職員の声②

➤ 理学療法士 5年目

私は回復期病棟へ勤務しており、主に脳血管疾患のある患者様へ理学療法を行っています。整形外科・内部疾患等、複数の病気を抱えた患者様がほとんどで、日々勉学の必要性を感じながら業務にあたっています。身体機能の改善を図ることはもちろんですが、患者様一人ひとりと向き合い、退院後の生活を見据えながら介入することがいかに重要かを痛感しています。

理学療法士として5年目となりますが、まだまだ力不足と感じることが多いです。当院では、症例検討会や勉強会を行っているだけでなく、院外の研修会や学会等にも積極的に参加することができます。そのような恵まれた環境の中で個々の技術・知識のスキルアップができるよう心がけています。

患者様へ最適な理学療法を提供するために、これからも尽力していきたいと思います。

職員の声③

➤ 理学療法士 14年目

当院は急性期病棟と回復期病棟があり、私は今までのキャリアでどちらの病棟も経験させていただく機会がありました。また外来リハの担当や、系列の介護老人保健施設の見学など、様々な経験を通して理学療法士としての視野を広げることができています。

また休暇もとりやすく、急な用事や体調不良にも柔軟に対応していただけます。学会や研修会にも積極的に参加できるため、自己研鑽していくことも可能です。

日々変化していく医療現場の中で、少しでも地域に貢献できるようにこれからも努力していこうと思います。

理学療法室長から

私たちは今年度の部門目標を「理学療法の効果を検証し主体的に行動をとることができる」と設定し、患者様にとって最良の理学療法を提供できるように努めています。

当院は青森県で最も多くの理学療法士が在籍しています。それぞれの職員に様々なライフイベントがありますが、みんなで支え合い・助け合いながら業務をしています。

中枢神経系や内部疾患系理学療法に興味のある方はもちろん、熱意や向上心のある方は、ぜひ一緒に働きましょう！

理学療法室長 山本 賢雅